

平成 22 年 5 月 21 日現在

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2007～2011

課題番号：19720185

研究課題名（和文） 中国南北朝・唐宋時代の軍事と秩序

研究課題名（英文） Military Affairs and Social Order -From the Southern and Northern Dynasties to the Tang-Song China-

研究代表者

丸橋 充拓 (MARUHASHI MITSUHIRO)

島根大学・法文学部・准教授

研究者番号：10325029

研究分野：東洋史

科研費の分科・細目：史学・東洋史

キーワード：軍事秩序、府兵制、募兵制、互酬、軍事財政

1. 研究計画の概要

本課題は、中国の北朝後期～唐代前期（6～7世紀）にかけ、府兵制の下に再現された古典的軍事秩序と、唐代中期以降これに代わって出現した個別的な互酬的軍事秩序の相互関係について、歴史的経緯の中で分析していくことを目的とする。前者は古典の正嫡としての外被をまとっているものの、歴史的に見れば募兵制と対応する後者の方が普遍的に見られる現象である。そこで本課題では、①前者が採用された思想的文脈の解明、②北朝後半～唐代前半にも伏流する互酬的君臣関係の跡づけ、という両テーマに取り組み、「後者の持続性」という視点を軸に前者の相対化を図る。

2. 研究の進捗状況

上記テーマのうち①については、唐代、『大唐開元礼』に集大成された古典的軍事秩序が、歴史的にどのような過程を経て生まれてきたのかについて考察するための基礎作業として、北朝期の講武・田獵・射礼について、主として正史や類書類から実施例を抽出し、データベースを作成した（2007年度）。

その結果、当該時期の講武・田獵は郊外で行われる事例が多いこと、特に北周期には講武の開催時季が冬季に集中するようになることなど、『開元礼』に連なる特徴も読み取れた。しかしその一方で田獵が季節性とさほど関係なく、頻繁に行われている点などは、鮮卑族の伝統との関連が想起され、『周礼』など中華の礼学を引き継ぐ面といかなる継承関係を描けばよいのかが課題として残っている。

②については、互酬的軍事秩序の存否を府兵制期以前にさかのぼって探求する作業の一環として「軍事財政の持続性」という視点を取り入れ、分析を行った（2009年度）。

その結果、（1）府兵制成立当初は地方司令官（総管など）が任地において独自の財政運営を行いえたこと、（2）隋代になると彼らから財政権が回収され、軍府（鷹揚府）への物資供給が民政系統（州県）に移管されるようになり、財政によって媒介される皇帝一兵士間の軍事秩序形成の一画期として注目されること、（3）唐代になると中央指令のもと、都督府が中継拠点となって軍事物資の物流網（外配体制）が整備されたことが近年明らかにされたが、それは（2）の構造をより鮮明にしたものと位置づけうること、等の見通しを得た。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

2008年度に半年間育児休業を取得したことともない、当初計画より形式的には1年遅れで作業が進んでいるが、2009年度（形式的には3年目）段階の進捗は、実質的に2年目（残り2年）であることを踏まえると、さほど大きく遅れているとは考えていない。

4. 今後の研究の推進方策

上記テーマのうち②の研究については、2010年5月までに論文化が完了しており、年度中に発表できる見通しである。

①については、特に北朝期の軍礼が、それ以前の礼学と思想的にどう連動するかに関する分析を残りの期間で分析し、論文化を目指していく。

5. 代表的な研究成果
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計0件)

〔学会発表〕(計1件)

①丸橋充拓, 府兵制以前における「軍事財政」の系譜, 唐代史研究会夏期シンポジウム, 2009年8月25日, 静雲荘(神奈川県箱根町)

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕

○出願状況(計0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

○取得状況(計0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
取得年月日:
国内外の別:

〔その他〕